

## (2) 東北



東北地域では、景気はやや弱含んでいる。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費はやや弱含んでいる。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている。

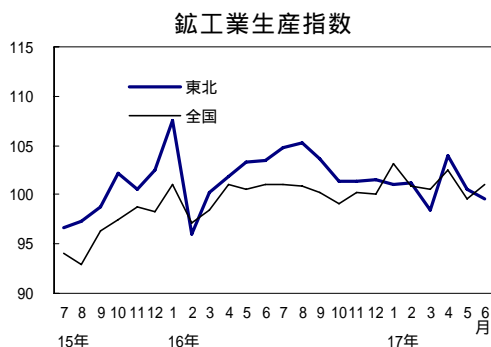
### 前回調査からの主要変更点

	前回（平成 17 年 5 月）	今回（平成 17 年 8 月）	
鉱工業生産	減少	おおむね横ばい	
住宅建設	大幅に増加	おおむね横ばい	

### 1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

電子部品・デバイスは、モス型半導体では、携帯電話やプラズマディスプレイ向けが好調であるとともに、サーミスタ・パリストが4月より生産を盛り返してきた影響により上昇している。食料品・たばこは、ビール・発泡酒、冷凍水産食品、バター等が好調であったため、増加している。情報通信機械は、最終製品の製造拠点が海外に移転したことにより、減少している。一般機械は、半導体製造装置が好調であるとともに、自動車向け金型も引き続き好調のため、おおむね堅調に推移している。電気機械は、非標準変圧器が3月分の受注残があったことや、開閉制御装置が好調なこともあり上昇している。



- (備考) 1. 12年=100、季節調整値。  
2. 平成17年6月の東北は速報値。

### 域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

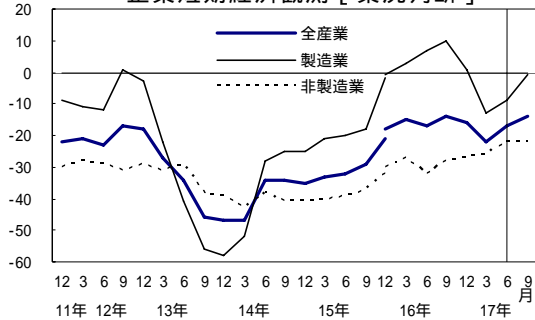
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1~3 月期	4~6 月期	4~6 月期	4~6 月期
電子部品・デバイス	19.3	2.0	3.2	4.9	17.3
食料品・たばこ	12.9	0.7	4.3	2.4	1.5
情報通信機械	11.6	16.4	6.0	4.4	6.2
一般機械	8.6	5.0	0.5	4.7	29.6
電気機械	5.8	0.5	5.6	7.2	25.9
鉱工業	100.0	1.2	1.1	1.8	1.3

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。  
2. 4~6月期は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が横ばいとなっている。

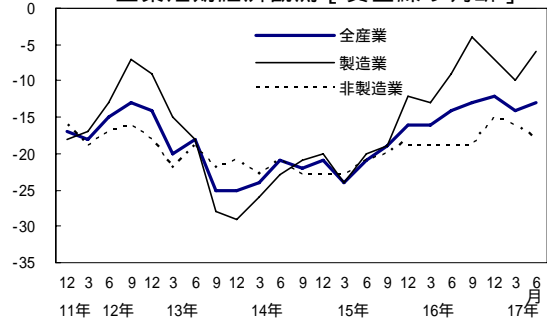
### 企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



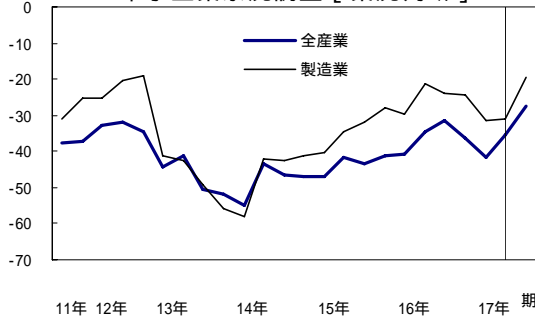
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。17年9月は予測。  
15年12月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
15年12月は新・旧基準を併記。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。17年 期は見通し。

### 景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]

「自動車部品については比較的好調に推移している。為替が一時よりも円安で推移しているため、輸出の採算レートが好転している(一般機械器具製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 17年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

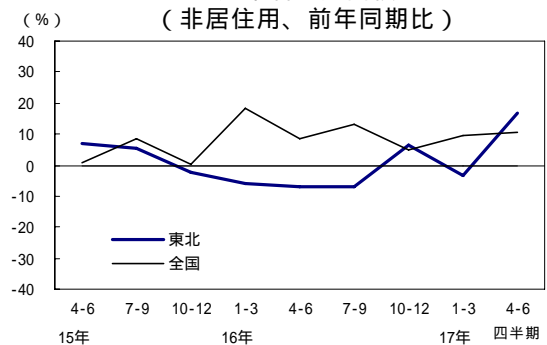
企業短期経済観測調査 [設備投資(6月調査)]

(前年度比、%)

	16年度実績	17年度計画
全産業	5.7( 13.9)	10.8( 2.4)
製造業	12.4( 27.8)	26.1( 7.5)
非製造業	0.8( 5.0)	5.9( 4.5)

(備考)( )は前回(3月)調査比修正率。

建築着工床面積  
(非居住用、前年同期比)



2. 需要の動向

(1) 個人消費はやや弱含んでいる。

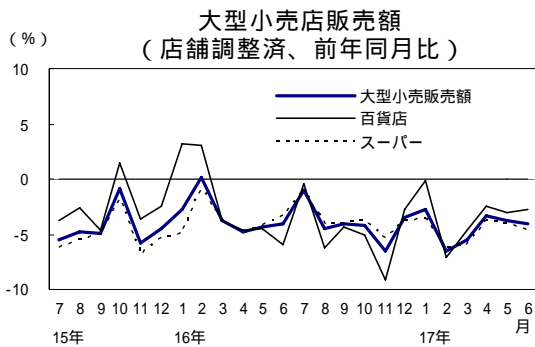
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、4月は、身の回り品が、ハンドバッグ、旅行用バッグに動きがみられたものの、気温が低めに推移したことから春物衣料が振るわず全体としては前年を下回った。5月は、ハンドバッグ、アクセサリが好調だったものの、ゴールデンウィーク以後気温の低い日が多かったことから夏物衣料が振るわず全体としては前年を下回った。6月は、紳士衣料がクールビズの効果でワイシャツ等に伸びがみられたことなどから前年を上回ったものの、婦人・子供衣料は振るわなかったため、全体では前年を下回った。日本百貨店協会によると東北地域の7月の売上高は、前年同月比で2.8%の減となっている。

スーパーは、酒を中心とした飲食料品が好調であったものの、衣料品や家庭用品が振るわず、全体では前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(7月)[家計動向関連(現状)]

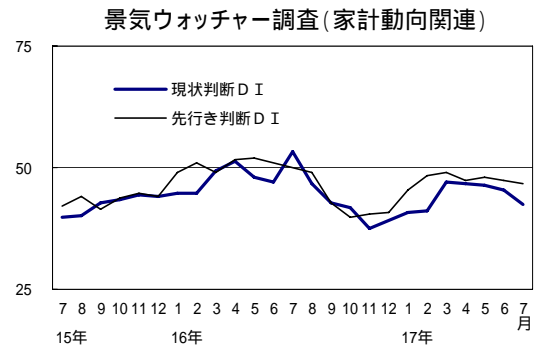
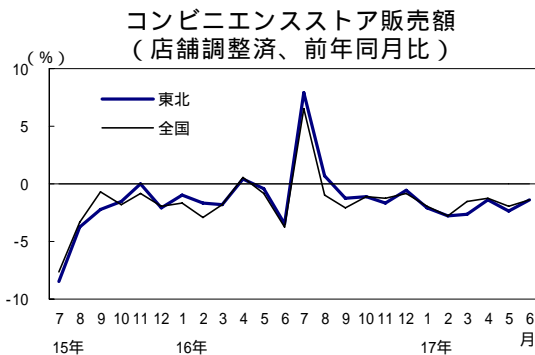
「ボーナス商戦も期待はずれで前年割れの実績になりそうである。来客数は前年並みであるが、商品比較の買い回りの客が多く、客との商談では、慎重で時間が長くかかる傾向にある(乗用車販売店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	16年7-9月	10-12月	17年1-3月	4-6月
大型小売店	3.2	4.6	4.8	3.8
百貨店	3.5	5.4	3.7	2.8
スーパー	3.1	4.3	5.1	4.1
コンビニ	2.5	1.1	2.5	1.7
景気ウォッチャー	47.6	39.4	43.0	46.1

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

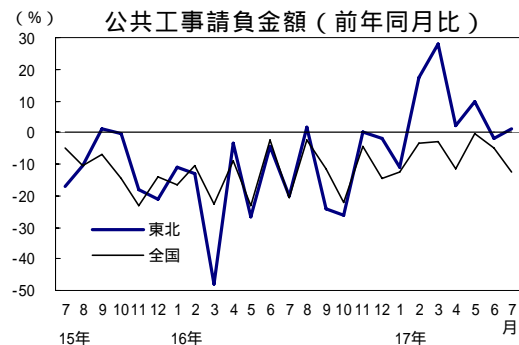
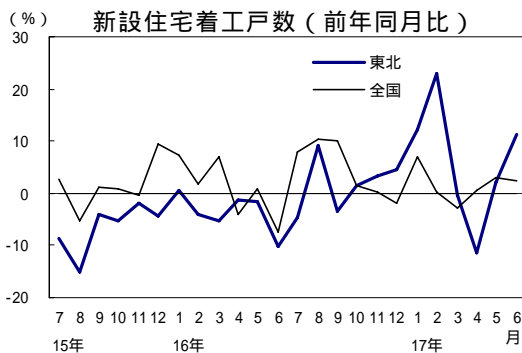
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



(2) 住宅建設はおおむね横ばいとなっている。

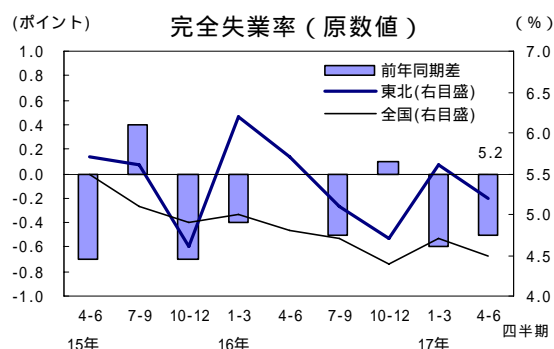
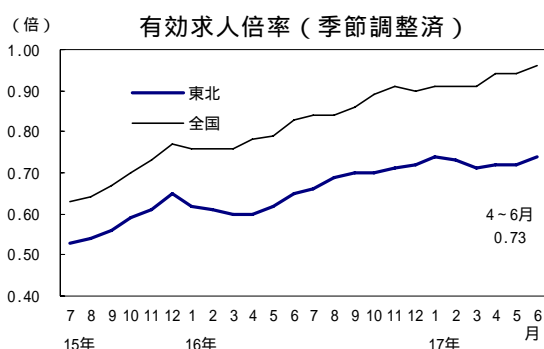
貸家が前年を上回ったものの、給与が下回ったことから全体では横ばいとなっている。

(3) 公共投資は17年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。



### 3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている。  
有効求人倍率及び完全失業率  
有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。

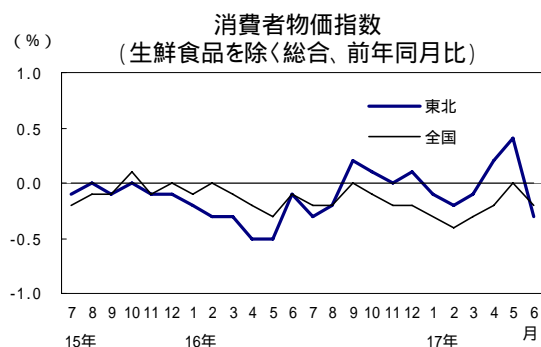


景気ウォッチャー調査（7月）[雇用関連（現状）]  
「企業からの依頼件数が前年並みにとどまっている。競合企業が増えた影響により、単価が安く、受注件数が伸び悩んでいる（人材派遣会社）」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

- (2) 企業倒産は、件数はおおむね横ばいとなっているが、負債総額は減少している。  
7月に負債総額が大幅に増加している。
- (3) 消費者物価指数は上昇に転じている。

#### 企業倒産

	（件、億円、％）				
	16年7-9月	10-12月	17年1-3月	4-6月	17年7月
倒産件数	222	239	234	247	76
（前年比）	23.7	3.9	4.1	1.2	1.3
負債総額	444	1435	832	956	498
（前年比）	67.8	91.6	3.8	10.6	280.6



#### 景気ウォッチャー調査（7月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

- ・クールビズの影響で、スーツを求める客が非常に慎重で、動いていない（衣料品専門店）。

<先行き>

- ・マンション販売に明るさがみえ、交通に便利な沿線の開発が活発化し比較的高い価格で取引されている（広告業協会）。

#### 景気ウォッチャー調査（合計）

